

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	23-1	学校名	県立水戸桜ノ牧高等学校常北校						課程	全日制	学校長名			橋本 晃輝			
教頭名	寺門 秀哲										事務（室）長名			佐藤 健一			
教職員数	教諭	11	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	3	計	24
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		5	2	15	5	17	16			37	23	3				

2 目指す学校像

校訓「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身共に調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①至誠を貫き、勤勉かつ規範意識が高く、社会変化に柔軟に対応でき、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、社会的自立ができる人財 ②生活を通してよりよい人間関係を形成し、課題解決に向け主体的にチャレンジできる人財 ③地域社会や産業界等と協力し合い、生涯にわたって郷土を愛し、自ら学び続けることのできる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①時代や地域の求める人財育成のため、個別最適な進路選択と学力向上の推進 ②授業や学校行事をとoshした心の教育を推進し、モラル・マナーを身に付け、道徳心を確立 ③生徒一人一人の確実な進路実現を目指し、キャリア教育と進路指導を充実
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	①心身共に調和のとれた成長と文武両道を目指し、仲間を大切に思いやることのできる生徒 ②自分の可能性と進路実現を広く追究して、進路実現に向け努力のできる生徒 ③地域社会や学校の規範を守って生活することができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動など積極的に取り組む意欲の高い生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	学習指導については、少人数及び習熟度別編成の授業展開を通して、落ち着いた学習態度の育成と確かな基礎学力の向上を図っているが、学習した内容について、授業では理解できていても定着させることに課題を残す生徒が多い。	教員の授業力向上を図りながら、個別最適な指導を継続することで基礎学力を定着させるとともに、達成感を与え、さらなる学習意欲を喚起する取組の工夫改善
進路指導	令和 6 年度の進路状況（卒業生 29 名）は、進学 16 名、就職 11 名、就職準備 2 名である。個に応じた進路選択を目指し、生徒が主体的に情報収集するとともに、進路実現に向けた計画的な実践力を育成することが必要である。	各種講演会やインターンシップ、キャリア・パスポート等の実践を通して、早期からキャリア教育を推進するとともに、自己実現への意識を高める取組の工夫改善
生徒支援	落ち着いた生活態度の生徒が大部分であるが、一部の生徒に基本的な生活習慣や規範意識に課題が見られる。挨拶の励行や日常的な支援による社会常識の涵養と、場に応じたコミュニケーション力の育成が必要である。	授業開始時に生徒観察を丁寧に行い、好ましい学習環境の構築を目指すとともに自主・自立に向けた基本的な生活習慣の育成を図る取組の工夫改善
特別活動	全校遠足、修学旅行やクラスマッチ等の学校行事を通して、主体性及び協調性を育成する。また、キャリア・パスポートを活用して、自らの変容や成長に気付くことができるよう教材及び指導内容を見直す必要がある。	HR 活動や全校遠足、修学旅行等の学校行事を通して主体性及び協調性を育成するとともに、キャリア・パスポートを活用して自らの変容や成長に気付く能力を育成する取組の工夫改善
働き方改革への取組	教職員数が少ない中、一人一人が大規模校と同様に業務が分担されていることから、一人何役もの任務が課され過剰負担となることが懸念される。	今後、生徒一人一人に向き合い、良き伴走者としての指導の充実を目指し、役割分担や業務の見直しを検討

5 中期的目標

- 1 学校行事を精選し授業時間を確保するとともに、学習指導の工夫改善と充実を図る。
- 2 授業や特別活動等を通して、心の教育に努めモラルやマナーを身に付けさせ、基本的生活習慣の確立を図る。
- 3 挨拶の励行を推進するとともに、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。
- 4 部活動への参加を促進し学校活性化に努め、個性の伸長と忍耐力・体力の向上を図る。
- 5 業務の在り方を見直すとともに教職生活の質を改善し、生徒に寄り添った個別最適な指導へとつなげていく。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
○確かな学力の定着と学習意欲の向上 (授業改善)	① 創意工夫を凝らした教材研究や相互授業参観等を通じ質の高い授業の実践 ② I C Tの積極的活用により学習意欲の喚起を図り、計画的・継続的な学習の実践 ③ 少人数・習熟度別授業の有効活用により基礎学力の定着及び学習意欲の向上 ④ 外部講師や英検等を活用し国際理解教育とコミュニケーション能力の向上 ⑤ 「生徒による授業評価」における「授業満足度」の平均 3.2 以上
○基本的生活習慣の確立	⑥ 容姿指導や遅刻防止指導を徹底した基本的生活習慣の確立 ⑦ 登下校時や授業の開始・終了時、校内外での挨拶の徹底 ⑧ 計画的な年 3 回の面談や家庭訪問、S C との連携等を通じた生徒理解の促進
○個に応じた進路実現	⑨ 3 年間を見通した計画的なキャリア教育の実践 ⑩ キャンパス・職場見学、インターンシップ、各種講演会、キャリア・パスポート等による進路意識の高揚 ⑪ 基礎学力定着に向けた取組や各種資格取得の奨励を通じた個別最適な進路実現
○特別活動及び部活動の活性化と豊かな人間性の涵養	⑫ 学校行事や生徒会活動、HR 活動を通じた積極性の伸張及びキャリア・パスポートを活用した自己変容や成長への気付きの促進 ⑬ 部活動への積極的な参加を促し、望ましい人間関係の構築と学校生活の充実 ⑭ 自他の生命を尊重し、多様性を受容できる心の育成と豊かな人間性の涵養

別紙様式 1 (高)

○地域から信頼される学校づくりの推進	⑮ ホームページや地域広報誌、学校新聞等の P R 手段を活用し、保護者・地域への積極的な情報提供の推進 ⑯ 学校評議員や近隣中学校等の意見を取り入れ、地域と連携した教育活動の展開 ⑰ 学校公開の計画的な実施による地域からの理解促進 ⑱ 分校の特長を活かし、シティズンシップ教育の推進と地域連携の促進
○D Xハイスクール事業の推進	⑲ 本年度から本格実施となる「小規模校支援型遠隔授業」の円滑な運用 ⑳ 高校教育課、受信校（磯原郷英高、茨城東高）との連携
○教職員の業務見直し及び意識改革の推進	㉑ 教職員が担う業務の明確化・効率化を目指すとともに、校務分掌の在り方や行事の精選・内容の見直しを図り、業務の平準化と長時間勤務の改善 ㉒ 従前からの業務の見直しと精選による事務作業等の負担軽減や、勤務時間を意識した業務の遂行など、教員としての新たな働き方改革の実践